

## #Q\_MODE ヘッダ

[ 書式 ( 行頭から ) ]

#Q\_MODE <num>

q コマンドと Q コマンドの処理方法を指定します。

指定値は下記の通りで、初期値は 0 です。

指定値	処理方法
0	ドライバ側で演算
1	コンパイラ側で <u>q コマンド</u> の指定長を休符に置換
2	コンパイラ側で <u>Q コマンド</u> の指定長を休符に置換
3	コンパイラ側で <u>q コマンド</u> と <u>Q コマンド</u> の指定長を休符に置換

0 以外を指定するとドライバの演算量が減りますので、実機演奏時の負荷が高いときに有効です。

ただし、曲データのサイズは大きくなります。さらに、各ドライバマクロの先頭で q8Q0 に戻るようになりますので、ご注意ください。

1 または 3 を指定した場合は、ドライバ側のキーオン処理が軽量モードに切り替わります。

2 または 3 を指定した場合は、Q コマンドの強制レガート機能は使用できなくなります。

[ 例 ]

```
#Q_MODE 1
A q4c8q8d8q4e8
;A q8c16r16d8e16r16 と等価
```

[ 例 ]

```
#Q_MODE 2
A Q1c4d4Q5e4f4Q9g4
;A Q0c4-#1r#1d4-#1r#1e4-#5r#5f4-#5r#5g4-#9r#9 と等価
```

関連

q コマンド , Q コマンド , #Q\_MAX ヘッダ